

きょういく・さど



令和8年8月31日
佐渡市教育委員会
事務局発行 第108号

令和8年度 全国学力・学習状況調査 佐渡市の結果概要

教科	小学校 平均正答率		中学校 平均正答率 ※英語は IRT スコア		
	国語	算数	国語	数学	英語 3 技能
佐渡市（全国比）	57%（-3.9）	54%（-2.4）	61%（-2.9）	51%（-6.0）	463（-36）
新潟県（全国比）	58%（-2.9）	55%（-1.4）	62%（-1.9）	54%（-3.0）	482（-17）
全国	60.9%	56.4%	63.9%	57.0%	499

※佐渡市中学校の結果は、文部科学省が定めた集計期間外に実施した学校の結果も含めて独自に集計したものです（市内全 12 校分を集計した結果）。各学校の平均正答率等は、小数点以下が四捨五入されて示された数値を改めて集計しており、正確な数値と僅かな差異があると考えられるため、あくまでも参考値としてご参照ください。

今年度の調査結果から見える佐渡市の学力実態

- ・平均正答率または IRT スコアにおいて小中学校ともに全教科で全国平均を下回っています。
- ・各教科において、上位層が少なく、中～下位層が多い傾向にあります。
- ・小中学校ともに国語への関心や得意意識が高く、発表や課題解決へ積極的に取り組む姿勢が見られます。
- ・自己肯定感や他者貢献の意識が高く、先生や友達との良好な関係が構築できている児童生徒が多いです。
- ・中学校数学では、全国平均との差が年々縮小傾向にあります。
- ・日常的な授業での 1 人 1 台端末の活用頻度が全国平均に比べて低いです。
- ・平日の長時間スクリーンタイム（3 時間以上）の割合が高く、中学校での家庭学習時間が少ないです。

全教科で全国平均は下回っていますが、小学校算数・中学校国語においてはその差は小さいです。また、中学校数学においては、全国平均との差は令和 5～7 年度と比較すると小さくなってきています。自己肯定感や他者貢献の意識など、非認知能力の育成が図られており、学力向上の土台は構築できてきています。

各教科の結果について



教科		○良かった点 ▲課題となる点
小学校	国語	○ <u>記述式問題への取組の良さ</u>：記述式問題の平均正答率は 54.7% であり、全国平均 (54.9%) とわずか 0.2 ポイント差で、ほぼ遜色のない結果です。また、記述式問題の無解答率が全国平均を下回っていることに加え、児童質問調査でも 79.7%（全国 79.3%）が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答しており、粘り強く最後まで取り組む姿勢が見られます。 ○ <u>国語への関心や意欲の高さ</u>：「国語の勉強は得意」と回答した児童は 67.1%（全国 60.4%）、「国語の勉強は好き」と回答した児童は 60.5%（全国 57.4%）であり、前向きな姿勢が見られます。 ▲ <u>問題文や選択肢の読み取りに課題</u>：選択式問題の選択肢、いくつかの資料や文章を正しく読み取り、それらから得た情報をもとに解答する問題の正答率が低い傾向にあります。
	算数	

	算数	○ <u>思考・判断・表現は全国と同等</u>：思考・判断・表現力を問う問題の平均正答率は 44.1% であり、全国平均（45.4%）とほぼ同等の結果です。 ○ <u>説明する活動を授業で多く設定</u>：「どのように考えたのか説明する活動を行っていた」とする児童は 68.5%（全国 63.0%）で、日々の授業の中で考えを説明し合う機会を多く設定し、対話的な学びを意識した授業改善が図られていることがうかがえます。 ▲ <u>「数と計算」領域に課題</u>：領域別では「数と計算」の正答率が 56.9%（全国 61.1%）で全国との差が 4.2 ポイントあり、基礎的な計算や数の仕組みの理解に課題があります。
中学校	国語	○ <u>「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」は全国と同程度</u>：「情報の扱い方」領域の平均正答率は 69.1%（全国 70.4%）、「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率は 64.3%（全国 63.9%）であり、概ね全国と同水準の結果を示しています。 ○ <u>国語に対する高い自信と関心</u>：国語の勉強が「得意」な生徒（61.9%）や「好き」な生徒（61.3%）の割合は、全国平均（それぞれ 51.6%、57.2%）を大きく上回っています。 ▲ <u>「言葉の特徴・使い方」や「書くこと」に課題</u>：語彙・文法などの「言葉の特徴や使い方に関する事項」（58.4%、全国比-5.5 ポイント）や、「書くこと」（63.6%、全国比-3.8 ポイント）の正答率が全国とやや開きがあります。
	数学	○ <u>経年変化を見ると全国との差は縮まっている</u>：平均正答率は全国比-6.0 ポイントですが、令和 5～7 年度調査（約-10 ポイント）と比較し、その差は縮まってきています。 ○ <u>個別の問題では全国を上回る</u>：累積度数の意味を理解し、度数分布表から累積度数を求める問題（正答率 49.2%、全国比+3.2 ポイント）で全国平均を上回っています。 ▲ <u>記述式問題の正答率の低さと取り組み方に課題</u>：記述式問題の正答率（32.8%）が全国平均（39.1%）を 6.3 ポイント下回っていることに加え、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合（52.5%）も全国平均（57.6%）より 5.1 ポイント低く、思考したことを数学的な表現を用いて説明する力に課題があります。
	英語 3 技能	○ <u>中間層の多さ</u>：能力レベルを示す 5 段階の指標において、中間の「バンド 3」に位置する生徒の割合は 39.7% であり、全国平均（38.4%）をわずかに上回る層の厚みがあります。 ▲ <u>英語への苦手意識と関心の低さ</u>：英語の勉強が「好き」と回答した生徒は 37.8%（全国 51.2%）、「得意」と回答した生徒は 25.4%（全国 39.5%）にとどまり、全国平均と比較して苦手意識をもっている生徒の多さや英語への関心の低さに課題があります。

児童生徒質問調査の結果について

小学校	○ <u>自己肯定感や有用感が高い</u>：「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童は 89.2%（全国 85.6%）に達しています。また、「人の役に立つ人間になりたい」も 97.0%（全国 95.8%）と非常に高い数値を示しています。 ○ <u>先生との信頼関係が強固</u>：「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は 93.7%（全国 91.4%）に上ります。また、「授業やテストで間違えたところを分かるまで教えてくれている」と感じている児童も 93.7%（全国 87.3%）と全国を大きく上回っています。 ○ <u>規範意識と他者への思いやりの意識が高い</u>：「いじめは、どんな理由があってもいけない」と強く肯定した児童は 86.5%（全国 81.1%）、「人が困っているときに進んで助けている」と肯定的に回答した児童は 94.4%（全国 92.7%）と、規範意識や他者への思いやりの意識が高いです。 ○ <u>追究心・他者の考えをもとに考える</u>：「分からないところやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答した児童は 85.6%（全国 79.4%）、
-----	---

	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童は 85.8%（全国 77.9%）で、問いに対して追究する姿勢や他者の考えをもとに学ぶ姿勢が見られます。 ▲ <u>平日のスクリーンタイム（SNS・動画視聴）が長い</u>： 平日、1 日 3 時間以上 SNS や動画視聴をする児童の割合は 41.2%で、全国（37.6%）よりも 3.6 ポイント高く、生活習慣上の課題です。 ▲○ <u>授業における ICT 活用頻度と活用能力</u>： 5 年生までの授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を「ほぼ毎日（1 日に複数の授業で）」使用した児童は 6.9%にとどまり、全国平均（20.5%）と開きがあります。端末等を用いた文字入力、情報収集や整理ができると回答した児童は概ね全国平均並みであり、活用頻度は低いものの、活用能力については概ね身に付いています。
中学校	○ <u>良好な友人関係</u>： 友達関係に「満足している」と肯定的に回答する生徒は 92.4%に達し、全国平均（91.2%）を上回っています。 ○ <u>他者貢献への意欲</u>： 「人の役に立つ人間になりたい」と強く肯定した生徒は 72.4%と、全国平均（69.8%）を上回る意欲を示しています。 ○ <u>互いに協力する姿勢</u>： 授業や学校生活で「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」生徒の割合（93.0%）は全国（92.4%）を上回っています。 ○ <u>先生への信頼感</u>： 先生が「間違えたところを分かるまで教えてくれている」と感じている生徒（87.3%）は全国（85.2%）より多く、指導への満足度が高い傾向にある。 ▲ <u>平日の長時間スクリーンタイム</u>： 平日に 3 時間以上 SNS や動画視聴等をする生徒は 57.2%（全国 49.6%）と多く、学力層（IRT スコア）が低い層ほどこの割合が高い傾向にあります。 ▲ <u>家庭学習時間の不足</u>： 平日の学習時間が 1 時間未満の生徒は 66.6%（全国 37.9%）、休日は 47.9%（全国 34.8%）に達しており、学習習慣の定着に大きな課題があります。 ▲○ <u>授業における ICT 活用頻度の低さ</u>： 1・2 年生の時の授業で ICT 機器を「ほぼ毎日（複数授業で）」使用した生徒は 23.8%であり、全国平均（29.3%）と開きがあります。ただし、文章作成や情報収集、プレゼン作成等の活用技能に関する質問の肯定的回答は全国と同程度です。

今後の取組の方向性について ～端末を活用した授業改善の推進～

今回の調査結果から、授業における一人一台端末の活用頻度に課題があることが分かりました。今後は、各学校の実態を踏まえ、端末を使った情報整理や表現活動を授業のねらいに応じて取り入れるなど、効果的な活用を進めます。また、学校訪問や研修講座等を通じて授業改善を支援し、考える・話し合う・書く・表現する活動と組み合わせながら、学びの質の向上を図ります。



- ◇ AI ドリル等を活用し、一人一人の理解度に応じた学習と知識・技能の定着を図ります。
- ◇ 情報整理や発表資料作成など、端末を活用した学習活動を計画的に取り入れます。
- ◇ 児童生徒が目的に応じて学習方法を選択できるよう、学びの自己調整を支援します。

市民の皆様へ 全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部であり、教育活動の一側面であることについてご理解くださいますよう、お願いいたします。

